



できる理由を探す

校長 石井 都

今年度は、梅雨の時期らしい雨の多い日が続いています。先月末には、運動部の朝霞地区学校総合体育大会が行われました。3年生にとっては、中学校体育連盟の大会として最後の大会になります。これまでの練習の成果を発揮しようと、どの試合も熱戦が繰り広げられていました。保護者の皆様には、大会当日の応援を含め、これまで多くのご支援、ご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

さて、少し前の話になりますが、日本の JAXA（宇宙航空研究開発機構）が開発して打ち上げた小惑星探査機「はやぶさ」を覚えていますか。「はやぶさ」は、2003年に打ち上げられ、2年の歳月をかけて小惑星「イトカワ」に到着しました。到着後、2回に渡って表面に着陸し、地表サンプルの採取を行い、「イトカワ」を離脱、地球に向けて航行し、オーストラリアの砂漠地帯に無事サンプル資料を届けました。7年間で60億kmという気が遠くなるような旅の間には、何度も、危機的な故障に見舞われました。他の研究団体が実現不可能とできない理由を列挙するなか、「はやぶさ」のプロジェクトマネージャー、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の川口淳一郎教授のプロジェクトチームは、斬新な方法と型破りな前向き思考でさまざまな苦難を乗り越えました。『できないと言う人はできない理由を探し、できると言う人はできる理由を探す。』あたりまえのようにも感じる言葉ですが、川口教授は、さらに、『高い塔を建ててみなければ、新たな水平線は見えてこない』とも言っています。その言葉の裏には、「同じ目線のままでは、決して今の水平線は広がることなく、新しいものは見えてこない。たとえ、無茶でも、はったりでもいいから、とにかくおもいきり背伸びして挑戦してほしい」という思いが込められているそうです。困難を前にしたとき、できない理由を列挙してしまう自分を戒める言葉でもあります。

ところで、新しい学年がスタートして3ヶ月が経ちました。子供たちの様子を見てみると、自分自身の感情や友達との関係に、折り合いをつけていると思われる場面を見ることがあります。この「折り合いをつける」ことは、集団生活や良好な人間関係を構築するうえで、とても大切なことです。



そこで、折り合いをつけるということについて考えてみました。

『相手の立場になって考える』…意見が対立したときに相手の意見を冷静に受け止めることは難しいことです。しかし、相手も自分と同じように「なぜわかってくれないのか」と感じているかもしれません。

『負け・負けの考え方をする』…主張をとおり「勝ち」にいけば折り合いはつかないでしょう。行き詰まった時、どちらか一方が折れるのではなく、お互いに負ける（折れる）と考えてみてはいかがでしょうか。

『答えを決めつけない』…答えを決めつけてしまうと話し合いの余地はありません。お互いに譲れる答えを探してみるのも一つの方法です。

『折り合いをつけることを前提としない』…最初から自分も折れるからそっちも折れてという『負け・負けの考え方』で臨むと、逆に人間関係を悪化させてしまうことがあります。最初から答えありきではなく、互いに納得のできる最適解を見つけていくことも大切です。

集団生活を通して、子供たちは子供たちなりに、相手と折り合いをつけながら生活しています。問題をより良く解決するためには、相手を尊重することが必要です。今後も、保護者・地域の皆様と連携を図り、子供たちが、自分の考えを自分の言葉で伝え、自分とは異なる考え方を持っている他者と折り合いをつけながら、より良い関係性を構築する力が身に付くよう、支援していきたいと思います。